

## コロンビアで開催された国際セミナーに招聘され、東日本大震災の復興に関して講演しました(2013/11/7)

テーマ：住宅地の再生、災害復興

コロンビアの Corporacion Antioquia Presente 社は、自然災害で影響を受けたコミュニティやリスクに曝されている住宅地の再生を目的として、社会貢献を行っている企業です。これまでにコロンビア国内や2010年の地震で被災したハイチなどで、計84のプロジェクトを通じて3万7千人に対する住宅供給を行ってきました。同社の設立30周年を記念した「地域再生に関する国際セミナー(International Seminar on Population Resettlement)」が、11月6日(水)と7日(木)にかけて本拠地であるメデジン市の EAFIT 大学で開催され、アメリカ、カナダ、ブラジル、チリ、コロンビア、中国からの政府関係者・実務家・研究者とともに、東北大学災害科学国際研究所から村尾修教授が招聘されました。

同セミナーは4つのテーマで順に開催されました。村尾教授は「第2部：災害後の住宅地再生」のセッションの中で、「Urban Recovery after 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami」と題して、過去の三陸地域の津波復興に関する取り組みや現在抱えている課題について講演するとともに、10月末に完成した「HFA IRIDeS Review Preliminary Report Focusing on 2011 Great East Japan Earthquake」を紹介しました。同セッションでは、2010年ハイチ地震および2010年チリ地震後の復興に関する取り組みなども報告され、各国の社会状況による違いについて議論しました。

セミナーでは「災害復興」以外にも、中国のダム建設に係る地域の移転と再生や、パナマでの鉱山開発のための移転と再生なども取り上げられ、災害復興以外の様々な「地域再生」を通じた今後の地域再生のあり方についての教訓を共有することができました。また同社により住宅を提供された方々も参加し、居住地再生を経験した人たちの声を聞くこともできました。



写真1：災害復興再生セッションでの討論



写真2：記念イベント

文責：村尾修（地域・都市再生研究部門）